

# JA全厚連情報



厚生連病院長セミナーを開催

## 目 次

- J A全厚連 第11次3カ年計画(案)及び令和7年度事業計画(案)等について協議  
事業企画委員会(実務者P T・保健事業部門)を開催 1
- デジタル化など病院の先進事例から学ぶ病院経営について研修  
令和6年度病院経営セミナーをWE B開催 6
- 人口減少と高齢化率が進む地域での医療を維持していくために等のセミナーを開催  
第35回厚生連病院長セミナー・全国厚生連病院長会第30回通常総会 7

### ・通信員だより

- サイバー攻撃に対するBCP対応訓練(能代厚生医療センター) 9
- 多職種が集い学ぶ院内学術発表会(由利組合総合病院) 10
- 病院に全身用X線CT装置 共済連の財政支援(J A茨城県厚生連) 11
- 令和6年度 家族参観を開催(茨城西南医療センター病院) 13
- 小児科・整形外科の病棟にガミティがやってきました(相模原協同病院) 15
- クリスマスイベント(相模原協同病院) 16
- クリスマス病棟訪問を行いました(伊勢原協同病院) 17
- 看護関係功労者 知事表彰を受賞して(松阪中央総合病院) 18
- クリスマスコンサートを開催(屋島総合病院) 19



全国厚生農業協同組合連合会  
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル  
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008  
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp  
(事業運営支援グループ)  
<https://www.ja-zenkouren.or.jp>  
編集責任者 歸山 好尚



JA厚生連

## J A全厚連 第11次3ヵ年計画（案）及び 令和7年度事業計画（案）等について協議

### 事業企画委員会（実務者P T・保健事業部門）を開催

大手町のJAビルにおいて、事業企画委員会（実務者P T：1月15日・20日、保健事業部門：16日）を開催した。

同委員会では、①JA全厚連 第11次3ヵ年計画（案）及び令和7年度事業計画（案）、②令和8年度税制改正要望（訪日外国人診療）並びに③令和6年度補正予算要望について報告が行われた。

#### 1 事業企画委員会（実務者P T：1月15日・20日）

（1）JA全厚連 第11次3ヵ年計画（案）及び令和7年度事業計画（案）については、Ⅲ、1、（2）厚生連に対する経営支援に向けた取組みに関し、「収支改善支援が行われることとなる、例えば、固定比率、長期固定適合率、借入金比率などの水準として全部又は一部への該当や具体的な収益増加策若しくは費用圧縮策のイメージを示してはどうか。」との要望があったが、本年度は、厚生連のみならずほとんどの医療機関が大変厳しい決算を強いられる状況であり、その状況や令和8年度診療報酬を踏まえて検討していくこととされた。

令和6年度補正予算への取組みに係る記述について、「令和7年度事業計画にあるのはどうか。」との意見があり、これについて、令和6年度補正予算に関し厚生労働省からは昨年12月に補正予算が成立しているものの、現在も補助金要綱等の発出がされておらず、その手続きが令和7年度にも継続されると想定されることや補助金獲得への取り組みを促す効果等を考慮し記述することとされた。

また、委員から、「病院建設等の大規模投資の際、行政等から補助金等を支援いただいても、その大半が消費税に消えてしまう。消費税負担の解消については取り組みをお願いしたい。」等の発言があった。

（2）訪日外国人に係る厚生連等に対する診療費要件の見直しについて、農林水産省から基礎調査（令和5年度の訪日外国人の診療実績）の依頼があったことから、各厚生連へ協力をお願いし、当該調査の結果を提出した旨を説明した。

多数の訪日外国人が利用するリゾート地に隣接する委員からは、「訪日外国人への対応では、外国保険会社とのやり取りなどに相当な費用がかかることを踏まえた取り組みを行ってほしい」という要請があった。

## 2 事業企画委員会（保健事業部門：16日）

JA全厚連 第11次3ヵ年計画（案）及び令和7年度事業計画（案）について、Ⅲ、2、（3）ICT等の活用に係る支援に関し、「JA厚生連におけるシステムの導入や費用の削減などへの支援とは、具体的にどのようなことを考えているのか。」との質問があり、これについて、①行政並びに各厚生連の取組み内容等の情報収集・共有を行う、例えば、他の厚生連が導入したAI（人工知能）に関する事例など、②国や都道府県等が措置した補助金の確保に係る取組み等の支援について説明が行われ、現状の記述のとおりとされた。

また、事業計画の作成方針等について、①当該計画の作成根拠（農協法施行規則第232条第1項）、②事業計画の目的、特に会員JAに対しては、出資金拠出者として厚生事業の運営実態を知るうえで重要なツールである旨を含め意見交換が行われた。

## 事業企画委員会 医療事業部門 実務者 PT 次第

日時：令和7年1月15日（水）  
20日（月）  
15時から  
場所：J A全厚連会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報告事項

(1) 令和8年度税制改正要望について（訪日外国人診療）

4. 協議事項

(1) J A全厚連 第11次3ヵ年計画（案）及び令和7年度事業計画（案）について

(2) 令和7年度経費の賦課及び徴収方法に係る考え方について（案）

(3) その他

5. 閉 会

## 事業企画委員会 保健事業部門 次第

日時：令和7年1月16日(木)  
15時から

場所：JA全厚連会議室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 報告事項

- (1) 令和6年度法人税非課税承認申請について
- (2) 第30回JA全国大会議案への対応について
- (3) 令和8年度税制改正要望について（訪日外国人診療）

### 4. 協議事項

- (1) JA全厚連 第11次3ヵ年計画（案）及び令和7年度事業計画（案）について
- (2) 令和7年度経費の賦課及び徴収方法に係る考え方について（案）
- (3) その他

### 5. 閉 会

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（実務者PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
高久 忠	福島県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
谷口 直樹	岐阜県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
飯沼 全司	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
三宅 隆	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務

## 【参考】

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（医師PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小野地 章一	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

# デジタル化など病院の先進事例から学ぶ病院経営 について研修

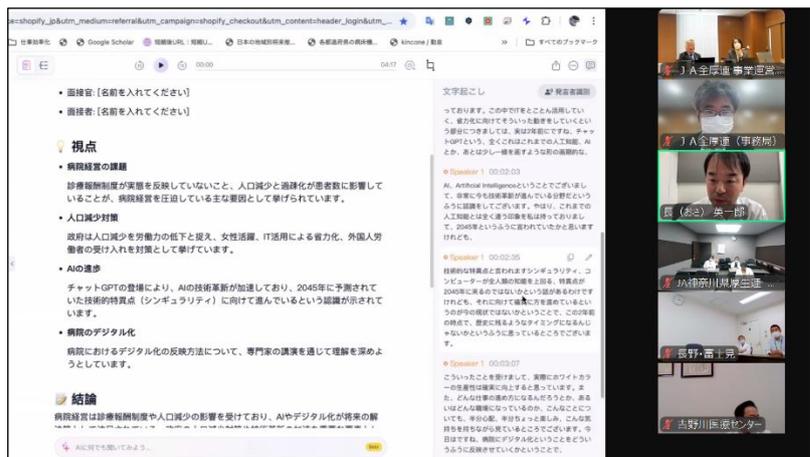
## 令和6年度病院経営セミナーをWEB開催

本会は1月17日、令和6年度病院経営セミナーをWEBで開催し、17厚生連から169名が参加した。

本セミナーは、病院経営に必要なマネジメント能力の向上、厚生連病院間の情報共有を図り、病院経営の改善に資することを目的に開催している。

今年度は、令和6年10月11日に開催した厚生連病院看護部長セミナーでの講演が大変好評であったことから、長 英一郎・東日本税理士法人 代表社員 所長を再度お迎えし、本セミナーでは更に対象者を拡大し、「デジタル化など病院の先進事例から学ぶ病院経営」と題して講演いただいた。

講演冒頭では、AI ツール (PLAUD NOTE AI ボイスレコーダー) を使ったりリアルタイム翻訳や、公道自動運転 (TESLA) を実際に使用した映像を公開し、今後病院経営に役立つツールになるであろうと話された。また、医療介護複合体、保険外 (自費診療)、規模拡大を実際に行っている病院の先進事例と AI 活用による事務作業効率化についてお話いただいた。



長氏の講演の様子

参加者からは「AI 機能がめざましく進化していること驚きました。労働人口の減少に伴い導入の必要性は理解できる。導入のタイミングを考えたい」「AI の進歩により、診察室に医師事務作業補助者すら不要になる時代になったことに驚愕しております」「大変具体的な事例で紹介していただけたので、分かりやすかったことと、自施設でできそうなこと、難しいことも考えながら聞くことができた」等の感想が寄せられた。

## 人口減少と高齢化率が進む地域での医療を維持していく ために等のセミナーを開催

### 第35回厚生連病院長セミナー・全国厚生連病院長会第30回通常総会

本会は令和6年12月22日、第35回厚生連病院長セミナーを開催し、20厚生連から56名の病院長等が参加した。

当日は、「人口減少と高齢化率が進む地域での医療を維持していくために」(南谷佳弘・国立大学法人 秋田大学学長)、「DX導入による病院業務変革の光と影 ICT導入で現場はどう変わったか?」(村上円人・佐野厚生総合病院院長)の2講演が行なわれた。



南谷氏の講演

南谷氏は講演で、「人口減少と高齢化率が進む地域で医療を維持していくには、まず現状分析(少子高齢化・人口減少、医師以外の医療従事者の減少、相対的医師不足の把握)が大切であり、従来の対応(医療需要が増加するとベッド数・医療従事者数を増やすこと)で行うことは、社会保障費の抑制に圧力がかかる。また、若手人口の減少により、働き手の不足に直面する」と話された。それに伴い必要な対策として、「病院機能分化・医療生産性向上(省人化)を行い、収益を上げつつコスト削減を行うこと、また、DX化を行うことで、非医療業務が減少し、医療業務に専念できる」と話された。また、「自院だけという考えではなく、どの病院も見捨てず、地域で協力していくことが大切である」という話が大変印象的であった。



講演全体の様子

村上氏は、情報システム業務との関わりについてのアウトライン（①HR ジョイント共同開発、②インスリン共同パッケージの共同開発、③日本透析医学会 HP リニューアル、④電子カルテの Vendor 変更、紙情報の電子化、看護室断捨離、⑤ヘルスレコードの共同開発、⑥iPad・zoom 連携（オリジナル）、⑦看護師クルズスのオンデマンド（オリジナル）、⑧胸部 Xp・A1 診断の導入、⑨RRS システムの導入（全国に先駆けて）、⑩クリニカルフロー：究極の電子情報抽出・表記システム）を交えて、ICTを導入したことにより現場がどう変わったかについて、ご講演いただいた。



村上氏の講演

特にDX推進には、システム導入後の業務変革に対し現場の抵抗があったが、それに対し「ITスキルの高い職員を採用し、若くても役割を与え、IT室兼務とすることで、現場ではリーダーシップを発揮するようになる」ことや、「システム導入時に、その効果や導入後の業務変革を十分に説明し、遂行する」ことが重要であると、実体験を交えながら話された。

参加者からは、「へき地にて運営している身としては、今後の運営の参考にさせていただきます。」、「人口減少地域での地域医療推進法人の設立と将来構想について、地域大学が先頭に立って取り組んでいることに感心しました。それだけ秋田県は危機意識があるのだと感じました。」、「当院は電子カルテ更新の時期にあり、参考になりました。」、「DX技術の導入のためには、IT業者との連携やアプローチの方法に工夫が必要であること、また、どのように活用すればよいか、大変参考になりました。」等の感想が寄せられた。

セミナー終了後、全国厚生連病院長会（会長：渡辺仁・佐久総合病院統括院長）第30回通常総会が行われた。

## 通信員だより

## サイバー攻撃に対するBCP対応訓練

(JA秋田厚生連・能代厚生医療センター)

近年、サイバー攻撃は増加してきており、その脅威は医療機関においても例外ではありません。能代厚生医療センター（太田原康成病院長）では、初の試みとして、電子カルテシステムがサイバー攻撃により使用不可となってしまった場合を想定した事業継続計画（BCP）対応訓練を行いました。

訓練では、シナリオとサイバー攻撃対応フローチャートの読み合わせを行い、対応の手順や問題点などを確認し合いながら、連絡体制や患者対応、人的配置等に対する確認・検討を行いました。最後に秋田県警察本部の方より、訓練の講評と、サイバー犯罪対策に関する講演を行って頂きました。

万が一被害を受けた場合には、病院内のスタッフ一人ひとりが、しっかりと状況を把握して行動する必要があります。当院では今後も継続してサイバーセキュリティに関する教育・トレーニングを実施し、セキュリティ意識の向上に努めて参ります。



訓練の様子

(淡路明美通信員)

## 多職種が集い学ぶ院内学術発表会

(JA秋田厚生連・由利組合総合病院)

令和6年12月5日、由利組合総合病院（軽部彰宏病院長）の講堂において「第63回院内学術発表会」を開催しました。この学術発表会は、院内の教育委員会の主催により、「医療の質を向上させる」ことを目的として毎年開催しています。今回の演題数は9題、発表者は医師、初期研修医、看護師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師と多職種にわたり、研究内容も多彩で興味深い発表が揃いました。

発表者の持ち時間は5分、9名の発表者が熱のこもったプレゼンテーションを行いました。討議時間は3分で、それぞれの発表後会場から質問が寄せられ、活発なディスカッションが繰り広げられました。院長、副院長、看護部長、各技師長などが審査員を努め、「ユニーク性」「分析度」「日常診療との関連性」「プレゼンテーションの良さ」の4つの評価項目により審査が行われました。どの発表も高い評価でしたが、厳正な審査の結果、上位3名が奨励賞に選ばれ、そのうち、「肥満と心血管疾患：高度肥満患者がうっ血性心不全をきたした一例」を発表した、初期研修医2年目の先生が栄えある第1席に選ばれました。

最後に、当委員会の委員長が閉会の挨拶に立ち、「昭和8年に開院した当院は今年で91周年。開院当初は医師、看護師など20名ほどの職員でスタートしたが、現在は様々な職種によって病院が運営されている。その中で、この発表会は脈々と63回も続いており、多職種が参加する良き研究発表の場となっている。医学の発展において学術研究は大変重要であり、今後も多くの職員が学術研究に取り組む環境づくりを継続していきたい」と述べ、学術発表会を締めくくりました。



院内学術発表会の様子

(淡路明美通信員)

## 病院に全身用X線CT装置 共済連の財政支援

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連は、全国共済農業協同組合連合会（以下JA共済連）から、「救急・リハビリ医療機器助成」を受けて、県北医療センター高萩協同病院（渡辺重行病院長）に全身用X線CT装置（キャノンメディカルシステムズ社製 Aquilion Prime SP/i Edition）を導入しました。

JA共済地域貢献活動の交通安全に関するさまざまな活動を支援する取り組みの一環で、JA関連医療機関の救急医療およびリハビリ医療の充実を図ることによって、交通事故被害者の救命や交通事故障害者の社会復帰支援を行っています。

新たな装置は、通常のX線撮影では得ることができない詳細な画像の描出や立体的な観察も可能となりました。被ばくを低減しつつ、高速かつ広範囲で撮影をするため、小児や救急など動きが抑制できない撮影にも威力を発揮します。

こうした負担軽減と診断精度の向上は、患者がより安心して高度な医療を受けられることにつながり、充実した医療環境の整備に役立つとして大いに期待されています。



全身用X線CT装置



全身用X線CT装置

JA茨城県厚生連は、「医療・保健・高齢者福祉事業を通じ、組合員ならびに地域住民の暮らしと健康を守り、明るく豊かな地域づくりへ貢献する」という理念の下、高度で専門的な総合診療機能の充実とともに、救急医療にも力を入れています。

2023年度、JA茨城県厚生連が運営する6病院で対応した救急患者数は7万7,803人。そのうち、救急車で搬送された患者は2万4,414人で、茨城県の救急車搬送患者の約6分の1に相当します。

今後もJA共済連とともに、医療・救命救急に力を入れ、高度で専門的な診療がいつでも受けられる施設を目指していきます。

(先崎理恵通信員)

## 令和6年度 家族参観を開催

(JA茨城県厚生連・茨城西南医療センター病院)

令和6年12月7日、茨城西南医療センター病院（上杉雅文病院長）において家族参観が開催されました。今年度入職した新人看護師26名を対象に、そのご家族を招待し実際に働いている姿・職場環境などを公開しました。病院概要のプレゼンテーションの後、各病棟に分かれての参観、後半には所属長・プリセプター（新人看護師を教育・指導する先輩看護師）との談話の時間や、サプライズで感謝動画の上映会を行うなど、盛沢山の内容となりました。

開催のあいさつにおいて飯塚看護部長より、「頑張っているみなさんをぜひ職員とご家族が連携してフォローをしていきたい。そのための場に本日の機会を大いに活用していただきたい」との話がありました。

学生ではない社会人になった姿を参観できる機会はとても貴重であり、普段なかなか聞くことのできない我が子の評価を真剣に聞き、安堵するご家族の表情がとても印象的でした。「実際に娘が働く姿を見ることができて感激した」「職場の雰囲気わかって安心した」「本当に看護師になったんだなあ」と改めて実感した」との声も聞かれました。ご家族のみならず、職員側が感極まり涙する場面も見受けられ、とても温かい雰囲気の家族参観となりました。



我が子を撮影するご家族



盛り上がる談話会

茨城県厚生連は今後もこのような活動を継続しながら、看護の質の向上と、安心できる職場環境の構築を行ってまいりたいと思います。



サプライズ動画のワンシーン

(先崎理恵通信員)

## 小児科・整形外科の病棟に ガミティがやってきました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和6年12月17日、相模原協同病院（渋谷明隆病院長）にJリーグ・SC相模原マスコットキャラクターの『ガミティ』がクリスマスプレゼントを届けにきてくれました。

ガミティとふれあい、写真撮影をし、さらにガミティからプレゼントを受け取り、子どもたちは嬉しそうでした。子どもたちが喜んでいる姿が、我々職員一同にとっては何よりのプレゼントです。



Jリーグ・SC相模原マスコットキャラクターの『ガミティ』

(増田佳一通信員)

## クリスマスイベント

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）では、令和6年12月23日にクリスマスコンサートが行われました。今野順子さん（ソプラノ）、村田庸子さん（ピアノ）、BellCheka!（ミュージックベル）の皆さんをお招きしました。美しい音色が会場に響き渡り、観客の皆様からは手拍子で温かい応援をいただきました。心温まるクリスマスのひとときとなりました。



今野順子さん(ソプラノ)、村田庸子さん(ピアノ)

BellCheka!(ミュージックベル)の皆さん

当日の会場の様子



特別デザート

工作中

プレゼント



相模女子大学の皆さん

同日、相模女子大学のサンタプロジェクトの学生ボランティアの皆さまが当院の小児科病棟の子どもたちに本を届けにきてくれました。合わせて開催された小児科のクリスマス会では、子どもたちが紙芝居を楽しみながら観賞し、工作に熱中しました。

そして、クリスマスの特別おやつで盛り上がり、クリスマス会は笑顔が溢れていました。相模女子大学の皆さま、サンタプロジェクトにご協力いただいた皆さまありがとうございました。

(増田佳一通信員)

## クリスマス病棟訪問を行いました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では、令和6年12月25日にサンタに扮した病院職員と病院幹部が各病室を訪問するクリスマス病棟訪問を行いました。鎌田病院長をはじめとした病院職員が入院患者さん一人ひとりの枕元を訪ね、お見舞いの言葉やクリスマスプレゼントを贈りました。

クリスマスプレゼントはキャンディや栄養室手作りのクッキーで、病院長やサンタの訪問とプレゼントに、患者さんは笑顔を見せてくれました。

入院生活の中でも季節を楽しみ、心安らぐ時間を過ごしてもらえよう今後も工夫を行ってまいります。



クリスマス病棟訪問の様子

(増田佳一通信員)

## 看護関係功労者 知事表彰を受賞して

(JA三重厚生連・松阪中央総合病院)

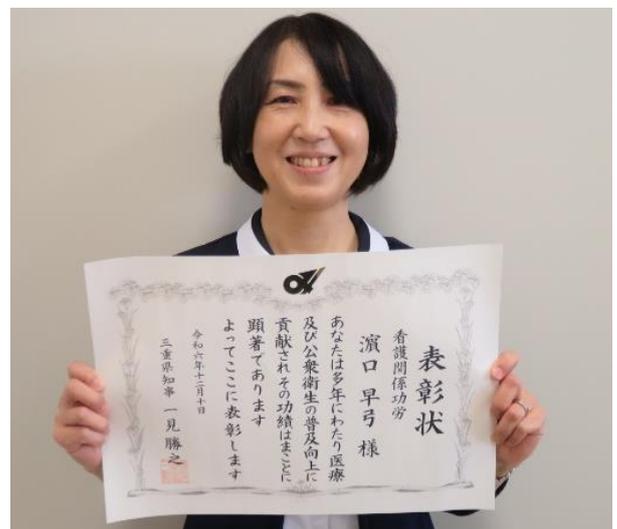
令和6年12月10日、三重県における医療・保健・福祉に貢献された方々の功績をたたえ表彰を行う、令和6年度「三重県医療保健及び子ども・福祉関係功労者 感謝のつどい」において、看護関係功労により知事表彰を松阪中央総合病院（田端正己病院長）

濱口早弓看護部長が受賞しました。この表彰は、長年にわたり県内の医療施設等において看護業務に従事し、功績があった者として三重県看護協会からご推薦をいただき、受賞に至ったものです。

受賞者の濱口早弓看護部長は、「このような栄誉をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。なお、今回の受賞は決して私個人の成果ではなく、日頃から支えてくださる松阪中央総合病院の看護部門全体、そして職員の皆様の協力と支えの賜物であると深く感謝いたします。今後も職員全体のさらなる発展と充実に向けて努め、より良い看護サービスの提供に精進してまいります。」と感謝を述べました。



感謝のつどい 集合写真



受賞者の濱口早弓看護部長

(井澤智子通信員)

## クリスマスコンサートを開催

(JA香川厚生連・屋島総合病院)

屋島総合病院（斉藤誠病院長）では、令和6年12月20日に1階外来ホールでクリスマスコンサートを開催しました。

社会人ビッグバンドの迫力ある生演奏や、地元で活躍するボーカリストの歌など、入院患者様や地域住民など多くの方々が来場し、クリスマス気分を満喫しました。

今後も地域を支える医療提供と地域への社会貢献の両立に取り組んでまいります。



コンサートの様子

(片岡麻美子通信員)